

# 摂理人への手紙

## 1章：はじめに ～摂理との出会いと別れ～

### 1節：摂理との出会い

私は4年半、主に「バレーの使命者」として摂理にいた者です。大学に入学してすぐ摂理に出会い、社会人となってからお別れしました。以下私の心の動きや意見を率直に綴りますので、気分を害される方がいらっしゃるかもしれませんが、何とぞご容赦くださいますようお願いいたします。

私の摂理との出会いは、大学内でバレーボールを持っていたとき、3人の女性に囲まれ、「バレーボールを教えて欲しい」と、彼女らがやっているというスポーツの「サークル」へ誘われたのがきっかけでした。彼女らとは初対面にも関わらず積極的にあれこれと質問されました。戸惑いもありましたが、学生数が多く、意外と人間関係が希薄な大学内で自分に関心を持たれていることに対し悪い気はしませんでした。結局彼女らの勢いに圧倒され、そのうちの一人と連絡先を交換しました。

ちなみに当時大学内で配布していた「怪しい勧誘に注意」とのビラを目にしていたので、彼女らは何かの宗教ではないかと半分疑っていました。しかし確かめもしないのに人を疑うのもよくないし、危険を感じたらいつでも抜ける自信があったので参加することにしました。当時はその世間知らずと自信が命取りになるとは思いもよりませんでした...

### 2節：深まる摂理人との関係

初めてそのスポーツの「サークル」に参加したとき、近い歳のメンバーからは自己紹介を受けたり、社会人らしきメンバーには勧誘された人に連れられて紹介されたりしました。普通はみんなの前で一度自己紹介した後は独力で人間関係を作っていくものだと思っていたので驚きましたが、人間関係を大切にするのはいい事だと思いました。ただ、OBやOGが来るほど結構前から存在する「サークル」なのに、名前を聞いても「特にない」と言われたり、偉そうな人（リーダー）が来たら人が群がり、ひたすら「すごいお世話になっている人だよ」などと賞賛していたのにはかなりひきました。

しかし「サークル」内には普段交流のない社会人や芸術系の人もいて、好奇心旺盛な私にとってはいろいろ学ばいいいチャンスであると思いました。また、スポーツ後はいつも食事に誘われましたが、誰も酒やタバコをしませんでした。どちらも嫌いな私にとって、その「サークル」はとても魅力的に映りました。

最初はスポーツの「サークル」のみに参加していましたが、次第にメンバーの家に呼ばれて食事を一緒に作ったり食べたりしました。ただ、その「サークル」内では共同生活をしている人がおり不思議に思いましたが、住人がコスト削減のため共同生活をしているという話でしたので、それ以上は深く考えられませんでした。またリーダーは社会人と聞いていたのに平日の昼間にスポーツに参加したり、食事の席にいたりして不思議に思いました。リーダーに何の仕事をしているか聞いたところ、イベント関係の企画の仕事をしているだとか、在宅でできるパソコン関係の仕事をしているだとか答えましたが、詳細についてはいつも適当に話をはぐらかされてしまいました。

その後、勧められて他の「サークル」活動にも参加したり接したりするようになりました。当時は

サッカー、バレー、バスケ、ソフトボール等のスポーツ関係と演劇、コーラス（ゴスペル）、バンド、吹奏楽、ダンス、チア等の舞台芸術関係があり、バレーやサッカーなどのスポーツの大会や芸術祭が頻繁に行われていました。私は若いうちに様々な経験をしておくべきだと思っていましたので、あらゆる行事にも進んで参加しました。また「サークル」でバレーをする時は皆をまとめる役割を与えられ、多少の責任と「サークル」への帰属意識が生じるようになりました。当時その「サークル」以外の別の大学のサークルでもバレーをしていましたが、バイトもあり両立が難しくなっていました。メンバーからは摂理側の「サークル」を選ぶように誘導されたこともあり、迷った挙句、大学のサークルは辞めてしまいました。そうしてますます生活の中でメンバーと接する時間の占める割合が増えていきました。

### 3節：明らかになっていく摂理の正体

「サークル」活動や行事等を経てメンバーとの関係性が強くなったある頃、「聖書の勉強をしているがあなたも学んでみないか」と切り出されました。宗教団体かも知れないと思いましたが、別に興味が無かったら聞かなくなってもいいし「サークル」の全員が勉強しているわけではないとの言葉と、自らの好奇心に後押しされて話を聞くことになりました。

その「聖書の話」は、はじめ聖書の謎解きのようなものや人生の教訓のようなものがあって興味深かったです。しかし教えてくれた人は「家族や他の人に言うと宗教だと誤解されるので言わないで」と強調しました。最初は大きくて宗教的な話ではありませんでしたので特に気にせず、お願いされたことは守ろうと思いました。

はじめに「分からないことがあったら質問して」と言われたので、「聖書の話」を聞く中で疑問に思う点をいくつか質問していましたが、「今後の話の中に答えはあるので今は教えられない」、「今回の話の核心に触れるものではないからそんな細かいところまでは必要ない」、「私もリーダーから聞いたからリーダーに聞いてみて」などと言われました。そしてリーダーに聞いても巧みに質問の核心をそらされたり、「時がきたらわかる」などと回答を先送りされたりして、次第に質問をせずにただ聞くだけになりました。

そして話が進むにつれて徐々に聖書の知識だけではなく、神様への信仰を要求する内容になっていきました。また聖書を学ぶにあたって賛美歌や祈りも要求されました。私は無神論者であり、にわかには受け入れられませんでした。「神様の存在や祈りの力を確かめもせず頭ごなしに否定するのはおかしい」と言われ、また自分自身も今後のため多くの価値観に触れておく方がよいと思ったので、無理にでも一度試しに信じてみようと思いました。信じた先に待つものは神やイエスへの信仰ではなく、自称「再臨主」であるという教祖や摂理幹部への盲目的な信仰であることも知らずに…。

### 4節：呪縛

そうして聖書についての話をひと通り聞き終えると、あるときリーダーから「連休にみんなでスポーツや出し物をするキャンプ（合宿）をするが行かないか」と誘われました。私はそのとき純粋にそれだけだと思っていたので快諾しました。

キャンプでは確かにスポーツや出し物などの芸術もしましたが、最後に待ちうけていたメインイベントは日曜礼拝でした。賛美歌（踊りを含む）、祈り、そして「先生」と呼ばれる教祖の説教（当時

は「先生」から送られてきた原稿をリーダーが読んでいました)があり、自分の意志に反して参加させられたことによりかなりショックを受けました。しかしまわりには昨日まで楽しく過ごしていた「サークル」の人たちで、私の礼拝への参加を心から喜んでおり、その心を踏みにじるのは気がひけました。また家からは遠く離れたところでしたので、ひとりでその場を去る事はできませんでした。

その後、礼拝は任意参加であると思っていましたが、参加しないと多くのメンバーから会う度に「自分の成長のため絶対参加した方がいい」と言われ続け、断ると「サークル」にも行きづらくなるので、仕方なく参加し続けました。その頃には摂理に時間をかけるあまり、家族や学校の友人等、他の人たちとの人間関係が疎遠になっていました。礼拝に出てしばらくしたら「サークル」は「摂理」という団体であることを知りましたが、特に大きな衝撃も受けられませんでした。

その後、いろんなメンバーに「成長するためには下宿した方が良い」と何かにつけて言われたのもあり、実家を出てメンバーと下宿生活を始めました。その頃には摂理が自分の中で中心になりつつありました。もうそのころには摂理を離れることは、当時の人間関係のほとんどを絶つことになり、「喪失」という名の恐怖が付きまといました。

「慣れ」、「適応」という人間の能力は恐ろしいものです。恋愛を禁止する摂理での結婚、献金の行方、教祖の居所と正体、摂理を脱会した人の脱会理由、教理の矛盾、摂理を熟知していないままの伝道など、摂理への疑問・違和感も次第に薄れ、感じなくなってきました。自分では冷静なつもりでも、いつの間にかまわりのメンバーと同様の思考回路になっていました。また、同じ教会内でも摂理を辞めて行く人が現れましたが、辞めた理由はリーダー伝いにしか聞くことはできませんでした。辞めた理由は恋愛禁止が受け入れられなかったり、両親に聖書が見つかり迫害されて来られなくなったり、インターネットで摂理の悪口を見て信じてしまったなどと聞きました。脱会した後、直接本人に聞いて見ると、聞いたのと違った理由の人もいましたが…。そうしてズルズルと摂理中心主義生活の深みにはまっていきました。

## 5 節：開放

そうして摂理内でバレー活動に勤しんでいるうち、いつのまにか摂理内で「関西バレー部長」に任命され、関西の他教会のバレーチームも(表面的に)まとめるようになったあるとき、当時のリーダーより「お前が摂理で活動していることを家族が知ったらいい。実家に呼び出されて監禁され迫害を受けるかもしれないから、何か家族からアクションがあったら教えなさい。」と言われました。その時は摂理での人間関係やバレーをする仲間を失う可能性があると思い、恐怖を覚えました。あっこ駅長らの脱会者やキリスト教の牧師が摂理を迫害しているということを聞いたのもその頃です。しかし、あっこ駅長とは以前摂理内で一緒にバレーをしたこともあり、摂理を迫害しているという話は素直に信じられませんでしたし実感が湧きませんでした。むしろなぜリーダーが私の家族の状況を知っているのが不思議で、聞いてみても「ある情報網から聞いた」と言ってハッキリとは教えてくれませんでした。

家族が私の摂理内での活動を知っているという話を聞いてからしばらくは家族のアクションはありませんでしたが、家族から来るメールや電話には注意を払いました。普段の何気ないメールや電話のやり取りの中で、「親が世界で一番子のことを考えているんだから、最後には親の事を信じや」などと言われたりしたので、徐々にリーダーの話に実感が湧いてきました。

そしてついに親から「あることについて相談したいことがあるので 月 日に実家に帰って来られないか」というメールがありました。私はその 月 日こそ家族が私に摂理を辞めるよう説得する日だと確信しました。相談のため実家に帰らないのも変なので、月 日の一週間前に何の連絡もなしに実家に帰りました。家族はさすがに動揺しているようでしたが、平静を装っていました。そして相談も終わり、明日は仕事だからと下宿先に帰ろうとしたとき、親から「今日は帰すことはできない」と言われました。そして「バレー以外に活動をしていることがあるのではないかと真剣に尋ねられました。大好きな家族と縁を切るのは考えられず、その家族の真剣な眼差しに嘘はつきとおせないと思いました。そしてポツリポツリと摂理での活動を話して行くうちに、日ごろ抱いていた摂理に対する疑問が次々と蘇り、ここで白黒つけなくてはと思いました。そこで親から「牧師さんに会って聖書を改めて勉強してみないか」と言われ、翌日早速自分で車を運転してその牧師さんの所に行きました。その牧師さんに摂理の教理への疑問をぶついたら、リーダーでも教えられなかったことを分かりやすく教えてくれました。また摂理が以前MS教と名乗り、教祖の鄭明析が信者への暴行事件で指名手配を受けていたり、韓国のニュースに出ていたりしたことや、日本でも週刊ポストにも取り上げられていたことなど、摂理内では得られない情報を得ました。確かに教祖は一般信者にも内緒で突然来日したり、居場所も一部の幹部にしか明らかにしなかったりと不審な点も多く、また日本とインターネットで通信しているときも他の部署をおいてチアやモデルの人ばかりと話をしてきた点などから、これらの情報は間違いないと確信できました。

また自ら歴史と照合せながら聖書を調べていくうちに様々な教理の矛盾点が露になりました。今までは「御言葉は正しい」という観点で聞いていたので、冷静に考えればすぐ分かる単純な教理の矛盾にも気が付きませんでした。同時に様々なカルト宗教の特徴を調べていくうちに社会問題となった宗教団体との共通性も多く見出し「摂理がカルト宗教である」とはっきり認識しました。そうして家族の愛と「無くしたものはまた作り出せば良い」との言葉で、恐れていた摂理人との決別を決意し、当時の教会のリーダーに会って脱会の意志を伝えました（会ったと言っても通勤途中に待ち伏せされた格好になりましたが...）。

摂理について調べている間、一週間ほど会社を休むことになりましたが、短期間であったのと事情を説明したことで幸いクビにはならず済みました。会社内で事情を知らない方々は軽い鬱に陥ったと思われるようですが、今では摂理にいた入社時より生き生きしていると言われます。摂理にいた頃は会社での人間関係を必要最小限にし、仕事にも集中できていなかったから愛想が悪く、ちょっと元気が無いように思われていたようです。困ったことは入社時に嘘をついた代償で、今でも私は会社では「全く飲めない人」のままです。

## 6 節：摂理との別れと新たな出会い

脱会後しばらくは摂理に残してきてしまった仲の良かった人のことばかり考えていました。脱会した私は摂理側にとっては「サタン」ですので、彼らに何とか誤解なく事実と自分の気持ちを正確に伝える方法は無いかと。しかし自分にできることには限界があるので、旧友と連絡をとったり、インターネットを駆使して新たなバレーボールのネットワーク形成に勤しみました。

その他、自分の心を整理するために多くの脱会者とも会い、その人を脱会させた家族や友人、恋人の働きに本当の「愛」を知りました。またゴスペルのライブを見に行ったり、キリスト教の教会を何

件かまわったりして、「理想世界」は摂理でしか成せないのかを検証しました。結果は当然ながら摂理外でも各々個性を発揮しながらも一体感を持ち、輝いている方がたくさんおり、改めて自分が無知であったことを思い知らされました。

摂理の「サークル」では、御言葉を受け入れられなかった人や摂理人以外の人を仲良くなるようにする人は、活動日の連絡をしなかったり、直接本人に「このサークルの考え方とは合わない」と言ったりして排除してきました。「来る者拒まず去る者追わず」がモットーであった私にとっては大変苦痛でした。また摂理ではタブーとされる異性への感情も押し殺し、心が救われていませんでした。しかし今では摂理においては永久に成し遂げられない「自分の心に嘘をつかない生活」ができ、また新たなバレーをする仲間にも恵まれて各種大会で入賞するなど、失った以上のものを手に入れました（摂理という「神様」や「再臨主」を裏切った私は、霊が死に地獄に堕ちるところですが...）

摂理を抜け出せたから言えることであり、ご迷惑をおかけした方々には申し訳ないですが、私は摂理と出遭えて結果的にはよかったと思っています。バレー以外の分野の人にも出会って学び、毛嫌いしていた宗教も理解できるようになりました。また「信頼できる人が必ずしも正しい行いをしているとは限らない」という教訓も得ました。

## 2章：摂理人のご関係者の皆様へ

「信じられない！信じたくない！」これが関係者が摂理に入っているという情報を得たときの率直な感想だと思います。「宗教には全く興味は無かったし、私に嘘をついたりしないし、サークルは楽しそうにやっていてイキイキしているし、紹介してくれたサークルの仲間も感じのいい人だったし、悪いところだったら自分で判断して出てくるだろう」と思われるのが自然だと思います。実際摂理人も悪意（地位、名誉、金、権力、性欲など）を持って信者を増やしたり信仰生活を勧めたりするのは一部の幹部のみです（もちろんその一部の幹部も自分の欲望を「救いを成すためだ」と正当化していますが...）。摂理人は基本的には自分や周りの人、世界を少しでも良くしようとする向上心が高い人が多いです。その向上心を一部の幹部にうまく利用され、言葉巧みに彼らの欲求を満たす方向に変えられているだけです。摂理の幹部級にならないと本人でさえもその裏の目的に気づかず、また知らされずにいるので、摂理の外にいる人はさらに分かりません。教祖や幹部と同様に本名を偽り、身分をごまかし、日の当たる場所へ堂々と出られなくなる前に、お近くの駅員や専門家にご相談されることをお勧めします。

ちなみに摂理人は以下のような人を勧誘しがります。

- 背の高い女性（モデルやチアに入れ、教祖に捧げるため）
- スポーツ選手や芸術家などの各部署の専門家（摂理ブランドの向上のため）
- 有名国立、私立大学生（摂理ブランドの向上、有能な人材の確保のため）
- 有名企業の社会人（摂理ブランドの向上、献金獲得のため）
- 品行方正で従順（勧誘・管理が楽なため）

摂理にはまってしまう人は以下のような人が多いと思います。

女性（良くも悪くも男性より感情的で、雰囲気流されやすい傾向がある）

純粹な人（悪くいうと「世間知らず」で疑うことを知らず、幹部の言うことを鵜呑みにする）

情に厚い人（摂理に疑問を抱いても、摂理の人間関係を切れずにズルズルと続けてしまう）

志の高い人（摂理の言う壮大なスケールの「世界平和」に賭けてみたくなる）

脱会した私が言うのも変ですが、摂理に関わってしまった人に向かって摂理を悪く言わないで下さい。また摂理で活動していたことを責めず宗教も否定しないでください。摂理に関わってしまった人は、はじめから摂理の全容を理解して活動したわけでも好き好んで人を騙そうとしたわけでもありませんので。まずは「摂理」がどういうところなのかをよく調べ、摂理に関わってしまった人を理解し、受け入れることから始めて下さい。

また、摂理を脱会するまでには摂理人も本人も多くの労苦が伴いますが、家族のあり方などその人との関係を見つめなおすよいきっかけになると思います。私は摂理の脱会をとおして家族との絆がより深まったと思います。

### 3章：脱退後の皆様へ

脱退前後にはメーリングリストから外され、毎日洪水のように送られてきたメールが突然送られて来なくなります。そして仲の良かった摂理人との関係も気まづくなり孤独感、虚無感に襲われるかも知れません。また摂理での人間関係がうまく行かず摂理を去った人、摂理の信仰生活についていけなくて辞めた人、ご家族等から無理矢理「宗教だから摂理を辞めなさい」などと自分の行動を否定された人など、気持ちの整理ができずにモヤモヤしたままの人もあるかも知れません。

私も摂理に仲の良かった人が多く、その多くの人たちを置いての脱会は価値観の相違によって長年連れ添った恋人と別れたような重い気持ちになりました。

気持ちの整理の方法ですが、ひとつは摂理にいた頃の記憶は完全に消し去るといったものもあるかとは思いますが。しかし私は摂理にいた自分も受け入れ、肯定できる方向に気持ちを整理できた方がよいと思います。

心の傷を癒す方法のひとつは時間ですが、もうひとつは自分の摂理での話を聞いてもらうことだと思います。駅員さん等の脱会者や何でも聞いてくれる人に会うなりネチケツを守ったうえで掲示板に書き込むなりして自分の思いを吐き出してみるのをお勧めします。自分の思いを吐き出すことによって心の整理ができ、次のステップを踏み出しやすくなりますよ。

また、摂理を辞めたことにより自分や家族が不幸になるということはありません。人生の幸・不幸はその人の考え方や行動に左右されますから。誰もがそれぞれの思い描く理想世界を成す力を持っていますので（もちろん社会のルールを逸脱しないでそれぞれの理想世界を造って下さいね）焦らず頑張らしましょう！

## 4章：現役摂理人の皆様へ

### 1節：一般現役摂理人の皆様へ

一般現役摂理人の皆様をお願いしたいことですが、まず摂理人と接する時間を減らして家族や摂理外の友人と接する時間を増やしてみてください。願わくは一定期間、摂理人との接触を一切遮断した上で以下の点についてじっくり考えてみてください。

摂理に所属している理由は何か？またそれは本当に摂理にしかないのか？

摂理で本当に救われているのか？摂理人の意見に流され、本来自分が進みたかった道からそれで結果的には足をすくわれていないか？

自分でも本質が見えず、教理も人に説明できない摂理に人を誘い、その人の人生を左右しても良いのか？

摂理のものさしで人をはかり、交友関係を制限し、自分の可能性を狭めていないか？摂理人が嫌がるタバコを吸ったり酒が大好きだったり、女（男）好き、遊び好きな人があなたの人生をより豊かにする可能性はないのか？

「御言葉」を聞いてこの世の全てが分かったような感覚になり、摂理外の人に対して高慢になっていないか？聖書を摂理の都合の良いように解釈した「御言葉」を聞いている自分たちの考え方が絶対的に正しいと思っていないか？

他人や自分の心に嘘をついていないか？「はかりごと」の名のもとに嘘で心に傷を負わせていないか？

摂理が理想世界ならなぜ脱会する人がいるのか？摂理の幹部は脱会理由を「親や反摂理の牧師の迫害に遭って変わってしまった」とか「摂理の悪いうわさを信じてしまった」だとか言うが、あなたは本人に会ったり電話したりして直接確認してみたか？

献金は何に使われているのか？一般のキリスト教の教会でも会計報告がある。お金を集めたならその用途を報告するのは当然で、やましいことが無ければすぐにできるはずではないか？

信仰の勧めが「洗脳」になっていないか？信仰とは「経験や知識を超えた存在を信頼し、自己をゆだねる自覚的な態度」、すなわち自分から信じる意志があるのが信仰であり、信仰を持つのも捨てるのも自由なはず。関係性を深めて容易に断れない状態で信仰生活を勧めるのは「洗脳」ではないか？

真理は不変ではないのか？真理とは誰も否定できない、普遍的で妥当性のある法則や事実だが、真理であるはずの摂理の御言葉が以前言っていた内容と違ったり矛盾があるのはなぜか？

摂理について、日本脱カルト協会の「集団健康度チェック」(<http://www.cnet-sc.ne.jp/jdcc/>)を行ってみてください。摂理にカルト性はないのか？

何をしようがどうなろうが最後まであなたを愛してくれる人は誰か？臓器移植など、自分の身を犠牲にしてもあなたを助けてくれる人がいるとしたらそれは誰か？

摂理の問題点に気付き改善しようと努力されている皆様、大変素晴らしいことだとは思いますが、残念ながら皆様には摂理を根本的に変える力はありません。摂理では自称再臨

のメシヤである鄭明析が伝える「御言葉」が絶対的な法だからです(しかし摂理人は「御言葉」を「文字通り」信じて議論もなされませんが...)。ですから摂理という狭く小さい世界ではなく、外の広く大きい世界でその力を大いに振るい、その崇高なる理想を実現されますことを心から切に願います。

悩める現役摂理人の皆様は、悩める分まだ心が完全に麻痺していない状況であると思います。是非摂理で刷り込まれた「固定概念」を捨て去って上記の内容について考えてみてください。

## 2節：お世話になった摂理人の皆様へ

摂理でお世話になった皆様、ありがとうございました。純粋に「サークル」や行事で一緒に楽しんで皆様は大好きでしたし、今でも一緒に純粋にバレーができたらなぁと思っています。摂理が「一般のサークル」だったらと思うと本当に残念でなりません。

何も言わずに摂理を出て行ったり、直接話ができず傷つけてしまったりした摂理人の皆様、本当にごめんなさい。それが今でも心残りです。ちゃんと皆様に話してから出て行くのが筋ですが、経験上親しいメンバーには脱会した私の話を聞かないように幹部から指導されていて無駄だと思いましたが、会社の帰り道で待ち伏せしていた当時のリーダーから「メンバーの連絡先は全て消去しろ、メンバーに連絡して一人で摂理を出ないときはそれなりの対応をさせてもらう」と脅迫され、報復を恐れたりしてできませんでした。しかし一方、そこでようやく摂理の本質を見たような気がしました。

また、私は摂理内ではサタン扱いされ、私と会わないように言われたり、会うことに対して恐怖を植えつけられたりしているという話を聞きました。まれに駅などで摂理人と会ったりしますが、私を無視したり避けたり逃げたりして心を痛めることがあります。私と直接話をしてその内容からサタンだと言うならまだしも、一方的に摂理幹部の話だけを聞いて人をサタンだと決め付けるのはいかがなものでしょうか。そうやって情報操作され、思考を操作され、自分で冷静に客観的に判断する力を奪われてはいないでしょうか。

## 5章：摂理人幹部の皆様へ

最後になりましたが、来る所まで来てしまった摂理人幹部の皆様は新たな道へ踏み出すのは相当難しいことかと思えます。ただ皆様も摂理に勧誘された被害者でもあることから、怒り以上に哀れみの気持ちが強いです。メンバーが事実を知って脱退するたび我が子を奪われた思いをし、脱会したメンバーが他のメンバーに事実を伝え道連れにするたびに我が子に裏切られた思いをし、心を痛めておられるかと思えます。しかし、自分たちの教理が絶対的な真理だと主張してキリスト教やイスラム教を見下し、自分たちを「より神に近い者」とする宗教に世界平和を成す力があるのでしょうか。むしろそういう考え方が争いを引き起こしているのではないのでしょうか。組織の維持や目的達成のために「はかりごと」と称して嘘をつき続けなければならない宗教の先にあるものは何でしょうか。

世論、マスコミもまた「神の目」です。摂理に対する意見を「サタンの迫害」の一言で片付けてしまうのではなく、神様からのメッセージとして真摯に受け取って欲しいと思います。

願わくは組織維持のために嘘偽りで塗り固めて守るしかない小さな世界ではなく、日の当たる場所で堂々とあなた方のリーダーシップやカリスマ性など優れた能力を発揮できますように、アアメン。